

1962年 70 80 90 00 2015年

1963 No.4 <p>3,208人</p>	1970 No.16 <p>9,351人</p>	1975 No.24 	1978 No.28 	1980 No.31 <p>21,666人</p>	1982 No.34 <p>MSB25,866</p>	1985 No.40 <p>MSB30,228</p>	1991 No.52 <p>MSB36,224</p>	2004 No.79 <p>MSB40,685</p>	2008 No.87 	2014 No.98
1965 No.10 	1971 No.17 <p>40</p>	1976 No.25 	1979 No.30 	1981 No.33 	1983 No.36 <p>MSB26,830</p>	1986 No.42 <p>MSB31,627</p>	1995 No.60 	2005 No.80 	2010 No.90 <p>59,200人</p>	2015 No.100 <p>65,365人</p>
1965 No.11 	1972 No.19 				1984 No.39 <p>MSB28,747</p>	1990 No.50 <p>MSB34,775</p>	2000 No.71 <p>MSB47,864</p>	2006 No.82 	2012 No.95 	創刊100号 記念号 53年目に100号に至りました。これからも愛読いただけるよう努めてまいります。

思い出に残る恩師のひと言葉集
(恩師50音順、抜粋)

しょうがないな。 — 相沢昭男先生
他にやる奴がないんだから

冷静な視点で — 赤塚祐二先生
講評の時のひとこと。その時は自分のやりたいことしか頭になかった時期でした。ふと素直な時この言葉が頭を過ぎります。今でもこの言葉を噛み砕き制作しています。
— 廣江友和 (01学舎・東京)

足の裏が描けていないね。 — 麻生三郎先生(故)
操縦デッサンを何回も描いてきましたが、なかなかまとまらずデッサン紙は黒くなるばかりで、もがき苦しんでいた時のひとこと。しばらく考えましたが、まだ若くしてと腹裏に強ったままでした。
— 奥山陽一 (58校舎二二・山形)

結婚は事故のようなものよ — 五十嵐久枝先生
卒業旅行でのひとこと。結婚は気付いたら済んでいたような感じで意識してはいるものではないとのこと。女性の先生ならではの教えを未だに思い出します。
— 大貫優 (12学舎・神奈川)

24時間ずっとデザインのことを考えている人 — 遠藤武雄先生
デザイナーの条件について仰った時のひとこと。そんな無茶な！と当時思ったものの、今でも時々思い出しては、そうだなと思うようになりました。
— 関野倫宏 (93学舎・岡山)

その経験は素晴らしい!
デザインとはいやだいやだを良かったに変えることです — 遠藤武雄先生
卒業後、子供が生まれ専業主婦をせざるを得ない時、毎日がいやだと先生にこぼした時のひとこと。デザインとは人生に密着しているのと改めて気づき、現在の仕事につながりました。
— 小栗朱実 (85学舎・愛知)

常に自分が美しいと思う状態にしない — 梶野明先生
デザインの授業でのひとこと。卒業後、私は美しい状態とは自分のベストの状態とイコールだと考えられるようになりました。今でもこの言葉を度々思い出し、自分を鼓舞しています。
— 高橋沙織 (10学舎・東京)

自分の周りのことを考えて — 黒坂圭太先生
アニメーションをどう描くか迷っていたときの、忘れられないひとこと。今でもいつも考えています。理論とはまた違う、私にとって素晴らしい先生のひとことでした。
— 朴智園 (08院学映・韓国)

飯に行け、無駄な線が入った
途端、絵は死ぬ — 小石新八先生
墨をまわり描んでいた、腹が減ったが、あつちと粘ってみるか？舞台装束の絵を描いていた。舞台装束の小石教授は、私に舞台装束の絵を描いて、飯に行け、無駄な線が入った。
— 石井淳子 (02通学ア・東京)

デッサンが進むにつれモチーフが画面から消えつつある人、初めて見た君には、その君が抱えている問題(描くとは何か)を生徒考え続けて欲しい — 酒井祐二先生
この言葉が、今の自分を貫いている。 — 小宮山和真 (08通学油・東京)

アメリカ、イタリア、韓国在住の校友はじめ、たくさんの寄稿をいただき、ありがとうございました!

大学は基礎、教わるより実作が勝る — 重政啓治先生
日本画への転科を考えたときに言われたひとこと。卒業後は油絵でしたが、その100号をミクスメディアにて描いています。おびただしい油絵の果ての現況をどうするかと模索中。
— 長島光治 (13通学油・栃木)

とんでもない! — 重政啓治先生
重政教授から卒業証書頂いた後、誰かが「私たちは『アマ』なんだから気楽な」と言った時のひとこと。以来、赤るつもりのない制作にプロとして励んでいる。
— 飯田暢子 (05通学油・東京)

大きな絵の方が得意だね、情熱家だ — 重政啓治先生
通学部の募集要項(作品掲載してもらった、私の表現目標)を生かす喜び(1)生かされる喜び(2)の支えになっていた。
— 安田有孝 (05通学油・東京)

毎日描くことが大事。 — 鈴木純子先生
書けない日は点だけ。繋げれば線の集合がデッサンになる
先生からのひとこと。小さなスケッチ機に毎日描いて、画ファックでなく考えを整理する事に繋がっています。
— 菅原高弘 (13通学生テ・東京)

人が話をしているのに、君の態度は何事だ!真剣に真面目に聞きなさい
先生が各人を回り指導されていたときのひとこと。お腹がすきお菓子を食べながら先生のお話を伺ったところ、烈火の如く厳父の怒りを頂きました。私は猛反省し、基本的な人間教育をムサビで学びました。
— 榎原(82院学油・イタリア)

君たちの絵は平面的だ。 — 仙名秀雄先生(故)
横や後ろを見れば見えていない部分は、見えない部分で成り立っていることが解るのだ
初の操縦デッサン授業。質疑の我々はこひと言でモデルの横や背に移動。質疑の我々はこひと言でモデルの横や背に移動。
— 岸本伸一 (61校舎二二・神奈川)

あなたは「うさぎとかめ」のかめ。
手を動かすのも、考えるのも遅い。でも自分の道を信じて少しも歩き続けられ、いつかは花咲く日が必ずくるから!頑張り! — 高橋晶子先生
先生の言葉を胸に、なんとか建築を諦めています。
— 高山ももこ (10学舎・東京)

スピニアウトしてね — 竹山実先生
大学院修了時のひとこと。僕なりの解釈(二重と学校に戻ってくるなよ)または、吹っ飛んで行け!独立せよ!でした。か、大体守っています。少しスピニアウトしたことがあるとも言えます。
— 石原信 (80院学建・東京)

夢は叶うよ神田くん — 田中秀穂先生
工学部の3年次編入(プレゼン)のときのひとこと。面接で役員が立ち上がり集まってきて試験に合格することができました。
— 神田真吾 (12院学テ・東京)

重心が下がってるよ! — 森芳雄先生(故)
生徒のイゼルからイゼルへと通り、私の絵の前で立ち止まったときのひとこと。あれから47年、その癖は直っていません。今も先生の声が聞こえます。
— 依田順子 (66大専油・アメリカ)

濃淡の幅をひろく! — 村井則善先生
写実の授業で繰り返されたひとこと。これは写真に限らず表現されたものに直接反映されていなく、絵や言葉の奥に含まれている語らぬ豊かに深いものと繋がっている。今も忘れてられぬ言葉である。
— 田中淑恵 (76学産商・東京)

なぜを武器に — 松原正州先生(故)
君はこれからの人生で、対象に疑問をもちなさい!
講評のときのひとこと。今でも、私が写真を撮る大切な基本なのです。
— 田中伸吾 (06通学コミ・奈良)

身丈ほどにスケッチを重ねよ — 保坂陽一郎先生
このひとこと。常にスケッチノートを持ち歩き、腰に止まるものをスケッチする様になった。インポートした情報は指先からアウトプットする。いつの間にか身の丈を超えたスケッチノートは私の分身であり、制作のヒントにもなる宝物だ。
— 藤原成暁 (77学建・東京)

考える時は自由に、作業する時はマシンになって
色彩の授業でのひとこと。デザインを考えた時と版を抜く時を切り替えて頑張っています。
— 小松有理子 (05学舎・千葉)

色々悩んだらう — 塚太久馬先生(故)
卒制の講評で言われた言葉。版権も斬りながら木版に着色、ワイピングしながら、羽を伸ばすばかりで、羽を休めること、実験することは学生時代そのときしか出来ない事でした。
— 武藤輝 (12通学油・東京)

私には美術館を作る — 中川美智夫先生(故)
講評の際のひとこと。その言葉が脳裏に焼きつき、小さな美術館を作りました。2008年中川先生から大作家十人点お預かりし、人物画テーマ別に展示しています。
— 坂本幸枝 (08通学油・埼玉)

続けることが、大きな力です — 永井研治先生
卒業後に制作を続けるに於いて、大変大きな原動力となっています。通信教育での辛くても楽しかった学習期間。制作そのものが好きだから、「時間がない」を理由にせず、細々とでも続けること、その喜びを時折味わっています。
— 松山裕一 (07通学油・東京)

果汁に代わる情報はすぎない — 寺田秀夫先生
2002年建築学科入学後の講義でのひとこと。34年後、拙著『デザインと記号の魔力』(勁草書房)で「ファンク・オランダ」を別冊にプロとして執筆した。
— 高橋博 (73学建75院学基・神奈川)

特集 長谷川路可とF・M壁画集団

F・M壁画集団とは...

画家・原田恭子（フレスコ・モザイク制作）Kyoko Harada

「フロワール」(1968年)現在まで
武蔵野美術学校 本科 西洋画科入学、在学中より長谷川路可に壁画技法
師事。1970年同卒業、F・M会員、共同制作に参加、春陽会、国際
モザイク展、モザイク会議展、フレスコ普及展、個展、グループ展多数。
壁画制作(個人制作、共同制作)、イタリア遊学。



1958年、武蔵野美術学校に「フレスコ研究会」が発足した。当時日本でそれが何であるかを知る人は少なかった。そんな時代にイタリアで6年間、教会の壁に對峙しフレスコの大作を描きあげた長谷川路可が帰国、この会を立ち上げたのである。1953年、路可は、「蝶々夫人」の撮影現場で美術担当の武蔵美の教授三林亮太郎氏に出会った。因みに路可はこの映画のタイトルバックを描いている。二人の美術家の間で何が語られたか記録はないが、後のフレスコ研究会発足の端緒となったと、想像できる。4年後路可帰国、時を待たずして武蔵美の田中理事長、名取校長、三林教授の絶大な協力の元、F・Mの母体が誕生した。まず新校舎2号棟(吉祥寺校)1F〜3Fの階段側壁を実習壁、4Fは卒業制作用の大壁面という空間が提供された。今、当時を振り返って、武蔵美が私学であり、アカデミアだったから可能だったのではないかと改めて思う。

路可は「建築空間と美術」をテーマにかかげ、共同制作をコンセプトとした。学生にとっては、規格化されたキャンパスの枠から飛び出し、不定形であり大画面であり、壁面に描くとなれば丸太の足場に乗り(おおいに揺れる)生乾きの壁に一日で描く。これがフレスコ。西洋絵画のルーツ。スリル満点で愉快だった。ただし卒業制作の大画面の下絵を作る時は議論百出。当時はまだ貧しかったが、情熱は熱かった。1961年、会の名称は「フレスコ・モザイク壁画集団」となるが間もなくF・Mが通り名となり今に至っている。

この年、村野藤吾設計の早稲田大学文学部の校舎1F床モザイク制作の話が、路可の元に飛び込んだ。デザイン路可、制作F・M、約58㎡を現場で制作「杜のモザイク」(写真1)。路可は共同制作のため、石組に規則性のある古代ローマ時代のモザイクを範とした。村野氏の要望は、白・黒大理石、手割りで割り面を生かす、であった。半世紀を経た今、床は自然研磨により滋味あるマチエールになっている。これはまさに時の流れを実感させるものであり村野氏はこれを想定されていたの



武蔵野美術大学吉祥寺校2号館に現存するフレスコ・モザイク

現存するフレスコ画は1967年(大学になって5年目)の美術学科油絵専攻の学生を中心に共同制作されたもの。当時学生は版画とフレスコのどちらかを前期授業で選択していた。



写真：大学史料室・1958年当時学生制作風景とフレスコ



だろう。2017年、突然この棟の建て替への報が入り当初は床モザイクも陶壁(辻晋堂)も灰塵に帰するところ、文学部の教授丹尾安典氏のご尽力により美術的なものは保存、再生となった。現在新校舎に総て移設され、再び歴史を刻むこととなった。

1964年、東京オリンピックのため国立競技場のメインスタンドに「対のモザイク」制作した。左は「勝利」野見宿禰(写真4)右は「栄光」ギリシャの女神(写真5)である。昨年現競技場は2020年次のオリンピック開催のため取り壊しとなるものの、幸い美術的なものは保存となった。一对のモザイクは博物館に保存とのことだが、私は過去の記憶として、競技場敷地内に設置することを提案しているのだが...

尚、同時に制作した中央玄関床モザイクは、今は既にある。



同年浜松の鴨江寺の食堂に「樹林図」をフレスコで制作した。路可は共同制作の共通項に大和絵の技法を生かすこととした。ひとつの実験といえるだろう。結果、寺院の食堂らしい清浄感のある壁面となった。路可とF・Mが手がけたフレスコは4点だが総て消滅し記憶に残るのみである。

この頃からF・Mに変化の時が訪れ、自らの道を模索しはじめるのである。



vol.1 <F・M壁画集団>の足跡

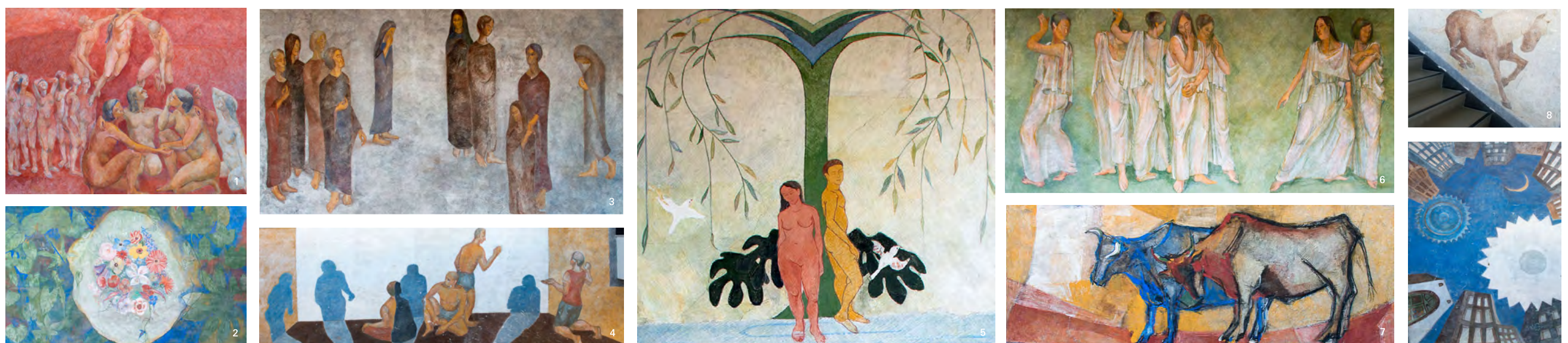
立春を過ぎたばかりの2月6日吉祥寺校にて、エッセイの執筆をお願いした原田さんを囲んで、<F・M壁画集団>についてお伺いする機会を設けさせていただいた。それぞれ縁のある同窓の甲田前学長、早稲田のモザイク保存で知り合った酒井名誉教授にご同席をいただき、校友会常任幹事佐奈と事務局中島で、半世紀前となるF・Mの記憶を辿っていただいた。

当時、日本の美術教育機関で、この分野(フレスコとモザイク)の専門教育は全く行われていなかった。10年足らずではあるがこのF・Mでの経験をした学生たちが、春陽会、モザイク会議等の重鎮として、また海外(台湾、ドイツ)で、今なお現役作家として活躍する。長谷川路可先生との出会いが礎となっている。国立競技場をはじめ、日本各地に貴重なF・M関係の作品があったことを知り、保存されていくことを望みたい。なお、台湾留学生であった陳景容氏のフレスコ・モザイク作品は台湾公共建物に現存する。

また、吉祥寺校にも路可先生指導最後の学生作品が現存する。大学史の中で、点でしかなかった記録が線となり、やがて面となるよう、今後も取り上げていきたい。(中)

※今回の特集でご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。
F・Mに関する資料等をお持ちの方は是非ご提供、ご協力をお願いいたします。

- 長谷川路可(筆蹟抜粋) 1957.7-9-1967.7.3
- 1921 東京美術学校日本画科卒業
- 1971 ティーターウェキア日本聖徳教養部壁画制作
- イタリアより帰国
- 1958 武蔵野美術学校本科デザイン科服装史の講師
- F・M壁画集団結成、共同制作開始
- 1960 第8回池袋賞受賞
- 1964 文化女子大学教授に就任
- 1967 日本二十六聖人記念館にフレスコ(長崎への遺制作、旭日小教養賞、逝去)
- 1958-1967 路可とF・M制作壁画の仕事
- ▲F・M前身「フレスコ研究会」時代
- 1958 岩国市庁舎「モザイク」(一部を移設保存)
- 古原旅館(熱海)大浴場「フレスコ」(建物解体により消失)
- ▲F・M壁画集団時代
- 1961 早稲田大学33号館1Fエレベーターホール「床モザイク」
- (2012年建物解体により新校舎に移設)
- 1963 船橋ヘルズセンターホテル
- 「床モザイク、フレスコ」(建物解体により消失)
- 日生劇場ヒロイ床「大理石モザイク」(現存)
- 東松山カントリークラブ「モザイク」(建物解体により消失)
- 1963 国立競技場「丘競技場正面玄関床」(モザイク、ケープル増設工事により消失)
- 1963 現存(2019年新競技場建設のため切り取り保存、静岡ジャンボビル「フレスコ」)
- (損傷により消失)、浜松・鴨江寺食堂(国際仏教館)「フレスコ」(不明)
- 1967 イラス・エル・ナザレ聖母受胎告知室「モザイク」(消失)
- 写真1 1960年制作、早稲田大学文学部33号館「床モザイク」(撮影H.H.)
- 写真2 1963年制作、船橋ヘルズセンターホテル「フレスコ」F・Mと路可先生(後列左から3人目路可)
- 写真3 1960年制作、東松山カントリークラブモザイク
- 写真4 5・1960年制作、丘競技場メインスタンドモザイク(高さ4m)



吉祥寺校に現存するフレスコ主な制作者/タイトル: 1. 杉浦祐二:「創造」 2. 綿貫久子:「献花」 3. 更谷貞嗣:「葬送」 4. 川端延亨:「労働」 5. 大坪美穂:「アダムとイブ」 6. 林寿恵:「キトンの女性群像」 7. 遠藤正弘(貫井):「牛」 8. 寺嶋鉄太郎:「馬」
その他メンバー、藤田典子(木下)、岡昭子(宮崎)、佐藤英雄、藤野勝之、村松昌三などいろいろ担当(敬称略)